

# 化学教育 徒然草

## 化学への道 垣根を超えた研究会

KAKIZAKI Teiji

蠣崎 悌司

北海道教育大学札幌校 教授  
北海道支部副支部長, 支部化学教育協議会議長



明治後期以降「鉄のまち」として発展した北海道室蘭市に生まれ育ちました。日本化学会の化学遺産第021号でも紹介されていますが、大砲技術を応用してアンモニア合成管を製造した日本製鋼所室蘭製作所のある街です。理科に関心を持つ発端は、昭和38年に開館した北海道で最初の科学館である室蘭市青少年科学館の科学クラブに小学5、6年と2年間通ったことです。特に思い出に残る講座はいわゆる分析化学の定性分析等に関する実験で、塩酸によるアルミニウム粉の溶解では水素の爆発音や意外にも大きい反応熱に驚きました。中学高校時代は吹奏楽少年で、将来は中学校理科教師として吹奏楽も指導できたらと夢を見て教育大学に進学しました。しかし、吹奏楽指導は音楽教師でなければ困難であることを知らされ、理科教師への志も後退しました（趣味はアマチュアオーケストラ、バスーン）。機会があって卒業研究は北海道大学理学部で行わせていただきましたが、入門した研究室は図らずも分析化学系でした。その後、大学院を経て教育大学に赴任し30年になります。

2010年から北海道支部化学教育協議会議長を務めております。例年11月に開催している「北海道地区化学教育研究協議会」を紹介します。この研究会は昭和27年（1952）「化学教育に関する座談会」の開催に始まり、その後、名称や開催形態を変遷しながら今日まで継続しています。この会は小・中・高・大学（高専）における化学教育実践・工夫の報告や問題提起等を行い、初等・中等教育と高等教育の相互理解と連携を深めることを目的とした研究会です。各学校種の教員から各1件の研究発表の後に発表者をパネラーとした討論を行い、子供達に化学に対する興味をもたせるにはどのような教育を展開していけば良いのか、またそれらの連携や接続をはかるにはどのような取り組みが必要かなどを話し合います。特別講演では国立教育政策研究所の調査官等を招いての講演や、地球環境問題など社会の関心が高いトピックスをその道の専門家にお話し頂いています。道内各地から多数の教員および大学(院)生が一堂に介し、化学教育に関して討論する全国的にも特色ある研究会として益々発展するものと確信しています。

[連絡先]

002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号（勤務先）